

花 無 心

第 294 号ダイジェスト版 2025 年 8 月発行

ひきこもり家族自助会とやま大地の会(設立 2001 年 3 月)

振込先 北陸労働金庫 富山南支店 普通 3414428 とやま大地の会

♪ ♪ 例会のおしらせ ♪ ♪



例会は、ミニ講演やグループでの分かち合いの場です。また個別相談会(希望者)も行っています。能登半島地震の影響もあり、県教育文化会館を会場として使わせていただいています。今後も変更がある場合がありますので、

参加を希望される方は、本会のホームページでの確認をお願いします。

09 月 20 日(第 3 土曜日) 第 295 回例会 13:30

富山市舟橋北町 7-1 富山県教育文化会館 502 号研修室

10 月 18 日(第 3 土曜日) 第 296 回例会 13:00 富山県教育文化会館 501 号研修室

高岡つくしの会との合同例会 講師は(一社)SHIP!代表理事、ジャーナリスト 池上正樹さんです。

11 月 15 日(第 3 土曜日) 第 297 回例会 13:30 富山県教育文化会館 部屋未定

12 月 20 日(第 3 土曜日) 第 298 回例会 13:30 富山県教育文化会館 部屋未定

会費 正会員の 2021 年度からの年会費は 2,000 円。例会参加費無料。(振込料は各自負担です。)

非会員の方の、2021 年度からの例会参加費 200 円です。

駐車場について … 会館近く北東側に会館の駐車場があります。

◎富山県ひきこもり地域支援センター、最寄りの厚生センター、保健所、福祉総合相談センター等で相談をしましょう。適切な支援に繋がるよう力を借ります。

◎支援センターに希望すること、親に出来ることを常時募集しています。

◎ご相談があれば、大地の会のホームページからお問い合わせ下さい。

「とやま大地の会」のホームページですが、下記 URL で開設しています。ご覧ください。

<http://toyamadaichinokai.com/>



本会の各事業は、富山県、赤い羽根共同募金の助成を受けて実施しています。

♪ 8 月例会報告

日 時: 8 月 23 (土) 13:30~15:00 富山県教育文化会館 502 号室

参加者: 10 名(男性 6 名 {内体験者 2 名}、女性 4 名 {内体験者 0 名})のご参加がありました。

I あいさつと諸連絡

猛暑の中、ご参加いただき有難うございます。猛暑の影響かご参加の皆さまの少ない例会となりましたが、少人数でじっくりと語り合いたいと思います。私は、この会に参加し皆様とお会いするといつも心が洗われる気がします。この会はいろんな方々の支えがあって続けられています。これからも何とか、力を合わせて続けていきたいと思います。

II 10 月例会『講演会』のお知らせ

18 日 13 時から(いつもより 30 分早く始めます) 富山県教育文化会館 501 号室にて

演題は「ひきこもりの現状~家族の気づき、本人に届く言葉」 講師は、池上正樹さんです。

501 号室は大きな部屋です。皆様のご参加よろしく願いいたします。

III いつもの話し合い 今回は参加者が少ないのでグループには分かれず、全体で行いました。

暑い日が続いています。皆さん、体調にはくれぐれもご用心ください。8 月の例会の当日も、熱中症警戒アラートが発令されていました。そのためか、参加者は 10 名程度でしたが、休息の時間も忘れ、気がつけば全体会がいつの間にかグループ討議のようになっていた珍しい例会でした。

(発言要旨)

- ・大地の会へは、最初の頃は妻が参加していた。私は定年になって参加するようになった。最初のころは、会に参加していても、息子への接し方も分からなかったし、息子の状態も良くならないと感じていた。しかし、欠席することなく参加することで、皆さんの話を聞き、なるほどと感じることも多くあり、自分の気持も安定するようになり、本当に参考になった。
- ・【小さな新聞記事】を見て、共有したいと思い、その思いを書いた紙を皆様に配ります。記事の内容は、「90代の父親が家の中で血を流して倒れていたと妻から110番通報。父親の死亡が確認され、同居する(50代)の無職の長男の犯行で逮捕。」
もし、息子さんがひきこもりの人ならという憶測。90歳を超えても息子を思い支え続けてきたであろう父親の無念さ。また、父親にこそ分かって欲しかったであろう息子さんの抱える苦悩。社会的な「ひきこもり」が生まれる今の日本の社会の構造的問題に議論がおよぶことなく、この一家の個別的な事件として社会より忘れ去られるとしたらあまりにもむなしくなり、私の思いをまとめたものです。
- ・一人息子。30代後半。ひきこもって20年ほど。いろいろあった。家出、バイト。入院して、……との診断。親も子もこの診断を受け入れられなかった。しかし、自分たち親は、息子のことを考え、年金手続きをし、受給させた。でも、息子は親が自分を障害者にしたと怒っている。また、親の介護も始まり、100%息子のことばかりを考えられなくなった。自分の人生のことも考えるようになり、この会にも参加するようになった。息子のことも含めて、俯瞰的(全体を広く客観的)に見えるようになってきたように思っている。
- ・息子40代。最初、ひきこもりも2~3年くらいかと思っていたが、10年以上になってしまった。息子の思いにたどり着いていなかったのだと思うようになったことで、息子との会話も自然な感じになってきた。大地の会の例会に参加することで、そのことが学べた。自分にも息子にも笑いが出るようになってきた。少し、時間がかかったかとも思う。
- ・(経験者)もう30年経つのかと思う。中3より不登校・ひきこもり。最初の頃は、自分でも自分のことがまざり分からない。15年位ひきこもっていた感じ。今は社会に出て10年。当時が第3者的になり、こんなのだったっけと感じる。自分が15歳の頃のときの母の年齢に今になって感じることは、母が会に参加して、いろいろな場を紹介してくれた。そんな行動があったから、今、社会に出ての今日があるのかなと感謝の気持ちになることがある。
- ・10代後半の息子。去年よりひきこもり。部屋より出てこない。長い1年であった。どうすればよいか分からない。
- ・不登校からひきこもりになるのは2割と言われている。また、不登校も選択肢の一つとも言われており、いろいろな選択肢もある。いまは静かに見守っていたほうがよいのではと思う。
- ・息子さんが学校へ行けない心情を受けとめてあげて、家で安心しておれるようにして見守ってあげることがよいのではと思う。
- ・(経験者)中退した。ひきこもる前、このままだいけばどうなるのかと考えていた。近親者の一人は、いつまでひきこもっているのかとか、中退するなら早めに中退して次の道へいけばなどと言ってきた。先ほどの場合でも、いろいろなことを考えておくことは必要だが、あまり一方的なことを言わないほうがよいと思う。

IV その他

- 1 例会では、十分に自分の話が出来ない。言い足りないことなど日常のあゆみなど体験発表をしてみませんか?約20分間程度を予定しています。



- 2 投稿欄について

会員の皆様から、「ひきこもりの理解」に関する本の紹介や講演の感想等、募集しています。

富山県ひきこもり地域支援センター からのお知らせ

相談時間：月曜日～金曜日 8:30～12:00、13:00～17:00 (要予約)

グループ相談を実施しています。

- ・本人グループ 毎週火曜日 10:00～12:00
- ・親グループ 毎月第2木曜日 14:00～16:00

まずはお電話でご相談ください。電話：076-428-0616

場所：富山県心の健康センター内 〒939-8222 富山市蜷川 459-1

V 高岡つくしの会より (2003年設立)

9月 月例会 9月14日(日) 高岡市博労公民館 1:30より
おとぎの森例会 9月10日(水)、27日(土) 2:00から

VI 書籍・論文の紹介 『こころの科学 242』 〈特別企画〉「支援なんていない！」 本人・家族の思い、支援者の葛藤 2025.7 日本評論社

[特別企画]の編者は太田順一郎氏(岡山市こころの健康センター、精神科医)。太田氏は“このような「支援なんていない！」という状況の中で、本人はどのような思いでいるのだろう。家族はどのような迷いや苦しみを経験しているのだろう。拒否されている支援者たちは、どのようにして支援を続け、もしくは諦めているのだろう。

今回の特集では、本人の拒絶の中で、本人・家族が何を感じているか、それでも支援者には何ができるのか、多くの経験の中から考えてみたい。“と、企画の前書きに書いておられる。

私にとって、とても学びの多い一冊である。(やま)